

# 平成 25 年度事業報告

(平成 25 年 4 月 1 日－平成 26 年 3 月 31 日)

## I. 会員数 (平成 26 年 3 月 31 日)

### (1) 名誉会員

平成 25 年 3 月 31 日会員数	4 名
平成 25 年度物故者	1 名
名誉会員現在数	3 名 (1 名減)

### (2) 正会員

平成 25 年 3 月 31 日会員数	1,132 名
平成 25 年度新入会員数	83 名
平成 25 年度退会者数	110 名
内訳    希望退会者	109 名
物故者	1 名
正会員現在数	1,105 名 (27 名減)

### (3) 維持会員

平成 25 年 3 月 31 日維持会員数	91 社
平成 25 年度入会社数	1 社
平成 25 年度退会社数	3 社
維持会員現在数	89 社 (2 社減)

## II. 機関誌送本および販売数

(1) 送本数	会員区分	送本数
国内	名誉会員	15 冊
	正会員	1,173 冊
	維持会員	943 冊
国外	正会員	9 冊
	小計	2,140 冊
(2) 販売数		155 冊
(3) 贈呈数	箇所数	送本数
国内	11	44 冊
	5	17 冊
国外		
	小計 16	61 冊
合計機関誌送本数		2,356 冊 (88 冊増)
(4) その他		

機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。

### III. 第 60 回通常総会

開催年月日： 平成 25 年 5 月 16 日

開催場所： つくば国際会議場

### IV. 理事会、理事・評議員懇談会

#### (1) 理事会 3 回開催

① 第 1 回 開催年月日： 平成 25 年 4 月 26 日

開催場所： 東京大学弥生講堂

② 第 2 回 開催年月日： 平成 25 年 11 月 29 日

開催場所： 東京大学医科学研究所

③ 第 3 回 開催年月日： 平成 26 年 3 月 25 日

開催場所： 書面決議

#### (2) 理事・評議員懇談会 1 回開催

開催年月日： 平成 25 年 5 月 14 日

開催場所： つくば国際会議場

### V. 定期学術集会の開催

第 60 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会 期： 平成 25 年 5 月 15 日（水）～17 日（金）

会 場： つくば国際会議場

会 長： 小幡 裕一（理化学研究所バイオリソースセンター）

参加者： 1080 名

### VI. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に希望配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成 25 年 4 月 1 日	62	2	
平成 25 年 5 月 1 日	62	サブプリメント号（電子配信）	
平成 25 年 7 月 1 日	62	3	
平成 25 年 10 月 1 日	62	4	
平成 26 年 1 月 1 日	63	1	

## VII. 研究の奨励、業績の表彰

### (1) 第25回学会賞受賞者を表彰した。

#### 1) 功労賞 (1名)

佐藤 浩 (自然科学研究機構生理学研究所)

#### 2) 安東・田嶋賞 (2名、五十音順)

岡部 勝 (大阪大学微生物病研究所)

「遺伝子組み換えによる不妊モデルの開発とその解析」

芹川 忠夫 (京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

「ラット遺伝地図とラット・マウス・ヒト比較遺伝地図の作成研究」

#### 3) 奨励賞 (2名、五十音順)

成瀬 智恵 (金沢大学学際科学実験センター)

「遺伝子改変マウスを用いた哺乳類の発生機構の研究」

新美 君枝 (理化学研究所脳科学総合研究センター)

「老化促進マウス (Senescence-Accelerated Mouse Prone 6: SAMP6) に対する網羅的行動解析試験を用いた脳機能研究」

#### 4) 2012年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1編)

関口 有佳里、大和田 淳也、大石 久史、勝又 斗紀夫、池田 香理、工藤 崇、高橋 智

「生物発光イメージングを利用したβ細胞マスと胎仔β細胞新生の非侵襲的検出」

### (2) 2012年日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

#### 2012年受賞者 (7名)

中国 : Bing Chen

台湾 : Chia-Yu Wu

インドネシア : Permanawati

マレーシア : Kamalan Jeevaratnam

フィリピン : Patricia Diana S. Suiza

シンガポール : Bao Zhen Tan

タイ : Duangthip Chatchaisak

### (3) 第26回学会賞受賞者を選考した。

#### 1) 功労賞 (3名)

鍵山 直子 (実験動物中央研究所)

高木 博義 (日本エスエルシー)

土井 邦雄 (東京大学)

2) 安東・田嶋賞 (1名)

山村 研一 (熊本大学生命資源研究・支援センター)

「遺伝子改変マウスモデルを用いたヒト疾患の病因・病態解析」

3) 奨励賞 (2名、五十音順)

金子 武人 (京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

「フリーズドライによるマウス・ラット精子長期保存法の開発と実用化に関する研究」

小池 智也 (神戸大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

「WHHLMI ウサギへの冠攣縮誘導による急性冠症候群の誘発」

4) 2013年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1編)

宮坂勇輝、鈴木沙理、大芝泰弘、渡部 桂、相良嘉彦、安田俊平、松岡邦枝、設楽浩志、米川博通、木南 凌、吉川欣亮

「マウスにおけるカドヘリン 23 の機能欠損 *Cdh23<sup>v-ugt</sup>* アレルとハイポモルフ *Cdh23<sup>ahl</sup>* アレルのヘテロ接合体は早発性・加齢性難聴を発症する」

(4) 2013年日本実験動物学会国際賞の選考を行った。

2013年受賞者 (9名)

中国 : Wei Li

台湾 : Li-Tzu Yeh

インド : Prakash Geriyol

インドネシア : R. Suryo Saputro

韓国 : Dongsun Park

マレーシア : Tan Choo Hock

フィリピン : Haidee Liban

シンガポール : Yon Jin Chuah

タイ : Tullayakorn Plengsuriyakarn

## VIII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規程等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、実験動物管理者研修制度ワーキンググループ、動物アレルギー検討ワーキンググループを設置し、活動を行った。

## IX. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力した。
- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議 (ICLAS) 及びアジア実験動物学会連合 (AFLAS) における

活動を継続した。

- (4) 米国実験動物学会 (AALAS) など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進した。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センター (JaCVAM) の活動に協力した。

## X. その他

- (1) 平成 25 年度維持会員懇談会を実施した。(財務特別委員会担当)  
「再生医療における実験動物の役割」  
平成 25 年 11 月 29 日、東京大学医科学研究所、参加者：81 名
- (2) 第 2 回実験動物科学シンポジウムを開催した。(学術集会委員会担当)  
「新たなライフサイエンス研究の展開-鳥類リソースの整備と活用に向けて」  
平成 25 年 12 月 9 日、名古屋大学野依記念学術交流館、参加者：102 名
- (3) 第 60 回総会期間中に 4 つの LAS セミナーを開催した。(教育研修委員会担当)
  - ① 実験動物福祉
  - ② 生殖工学
  - ③ 微生物モニタリング
  - ④ 遺伝子組換え動物とカルタヘナ法  
(参加者合計：504 名)
- (4) 実験動物管理者研修会を開催した。(実験動物管理者研修制度ワーキンググループ)  
平成 25 年 9 月 5-6 日 東京大学農学部  
平成 26 年 2 月 27-28 日 東京大学農学部  
(参加者合計：231 名)